

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00565

研究課題名（和文）East Bodish諸語の言語実態・言語変化・言語変容

研究課題名（英文）Linguistic dynamism, linguistic change and linguistic transformation in the East Bodish languages.

研究代表者

西田 文信（Nishida, Fuminobu）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：40364905

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではチベット＝ビルマ諸語のなかでも歴史的研究に重要な位置を占めると考えられるブータン王国で話されているマンデビ語を始めとするEast Bodish諸語に関して、現地調査により言語データを収集・整理し、特に語彙形式と形態統語論を中心に、語の文法的振る舞い、構文の意味機能について言語構造の歴史的發展を解明すべく考察を行った。これによりチベット・ビルマ系諸言語の系統関係や下位分類をより精密化することが可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

East Bodish諸語を言語動態と言語基層の観点から詳細に考察した結果、East Bodish祖語形式の精緻化がはかられ、言語史ひいては民族移動史を探求する上での手掛かりを得ることができた。特にEast Bodish諸語の歴史的發展、周辺諸語との接触に関する分析が進展した。また海外の研究者が蓄積してきた言語データを連携・統合して、相互利用を可能にするシステムの基盤整備を行った。現地研究者との協働を通じて、現地研究者や若手研究者の育成にも貢献した。

研究成果の概要（英文）：The present study aims to collect and systematise linguistic data on East Bodish languages, including Mangdebi, spoken in the Kingdom of Bhutan. These languages are deemed significant for the historical examination of Tibeto-Burman languages. The study employs field research to investigate the language's structural evolution, specifically concentrating on lexical forms and morphosyntax. Through this approach, the research refines the understanding of the phylogenetic relationships and sub-classifications within the Tibeto-Burman language family.

研究分野：言語学

キーワード：言語学 記述言語学 歴史言語学 ブータン王国 East Bodish諸語

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまでの3回の科学研究費の研究課題でマンデビ語を中心に網羅的な言語ドキュメンテーションを行ってきた。Gwendlyn Hyslopの論考によると Kurtöp 語の人称代名詞は全て -t という形式を有する。この -t はマンデビ語では能格標識である。また、George van Driem (私信)によると Bumthang 語には声調が認められるというが、申請者の観察によると高低アクセントと解釈される。またこれらの言語は証拠性 (evidentiality) が発達しているが、これは話者の自然・文化的基盤と大いに関係がある。生物多様性が言語多様性に影響与えている可能性もある。East Bodish 諸語は代名詞の形式や格標識の統語的振る舞いが多様性に富み、また音韻形態論的現象が数多くみられ、言語多様性の類型と差異の深さという観点から East Bodish 諸語全体を背景となる文化を含めて再検討する必要があると考え本研究を着想した。

## 2. 研究の目的

本研究は、ブータン王国の諸言語の中でもその重要性にもかかわらず、世界的に見ても申請者の基礎的調査研究以外に研究論文のないマンデビ語 (Mangdebikha: シナ=チベット語族、チベットビルマ語派、東チベット語群)を中心とした East Bodish 諸語について、言語文化に関して多面的かつ包括的なドキュメンテーションを行うことを目的とした。具体的には、

- (1)現地調査により収集した音韻・音声・形態統語論のデータを分析する。言語運用と変化の実際・実態を踏まえた言語動態論的視座に立脚した語彙分析を施す
- (2)歴史言語学の観点から East Bodish 諸語の正確な下位分類を提示し当該諸言語における各語彙の祖形を再構し、チベット=ビルマ祖語及び周辺諸言語との親疎関係を解明する。
- (3)evidentiality, mirativity, egophoricity 等言語類型論の理論的研究に貢献できる言語現象を整理・検討・提示する。

## 3. 研究の方法

- (1)現地調査により収集した音韻及び形態統語論のデータを分析、データベース化を行う。
  - (a) 音素抽出・音響音声学的解析
  - (b) 形態統語論的解析
- (2)周辺諸言語との言語接触、借用等、言語動態論的視座に立脚した語彙分析を施す。
  - (a) 語彙項目の意味分析
  - (b) 語彙の出自の確認
- (3)歴史比較言語学の観点からチベット=ビルマ祖語及び周辺諸との親疎関係を解明する。
  - (a) 語彙比較による系統分類
  - (b) 最節約原理に基づく系統分析
- (4)ブータン王国において現地若手研究者の育成に協力し、研究結果を現地へ還元する。
  - (a) 研究成果の社会的還元
  - (b) 表記法の提示、教材作成、母語教育による教員養成等、言語再活性化への貢献

## 4. 研究成果

(1)East Bodish 諸語を中心とするブータン王国諸語に関する成果は以下の通り：

### 【図書】

- (1)月田尚美、中川裕、丹菊逸治、李林静、小野智香子、江畑冬生、長崎郁、永井佳代、塩谷亨、北原次郎太、永山ゆかり、児倉徳和、久保智之、西田文信、加藤高志、野島本泰、Long, Daniel. 2021. 共著. 『日本語の隣人たち I+II』白水社。(担当箇所：ゾンカ語の世界)
  - (2)西田文信. 2020. 『ゾンカ語表現集』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
  - (3)西田文信. 2020. 『ゾンカ語基礎語彙集』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- (1)は一般書としてゾンカ語文法の基礎的部分を提示したもの。(2)はゾンカ語の文例を数多く提示し、実際の場面で応用可能な表現の学習を目的とした教材で、(3)はゾンカ語の基礎語彙のうち子音字 k で始まるものに限って編纂した基礎語彙集である。今後は基礎語彙集の完成を目指して語彙を増やし、精確な発音・意味表記を付していく。

### 【論文】

- (4)西田文信. 2023. 「レプチャ語ブータン方言の母音に関する覚書」『学術研究』72:195-207.
- (5)西田文信. 2022. 「マンデ語の身体部位名称」『言語記述論集』14:145-156.
- (6)西田文信. 2021. 「書評：藤原整著『ブータンの情報社会』」『ブータン学研究』4:91-95.
- (7)西田文信. 2021. 「ラカ語の音韻体系」『ブータン学研究』4:45-56.
- (8)西田文信, 平山雄大, 藤原整. 2021. 「ブータンにおける言語・教育とそれらを取り巻くメディア環境に係る問題群」『南アジア研究』32:172-177.
- (9)西田文信. 2020. 「ゾンカ語の能格性に関する覚書(その1)」『ブータン学研究』3:25-35.
- (10)西田文信. 2019. 「マンデビ語諸方言における音韻の年代差」『ブータン学研究』2:33-47.
- (11)西田文信. 2019. 「ブータン王国の諸言語について 言語多様性の現状と課題：Lhokpu 語を

例に「『ヒマラヤ学誌』(京都大学) 20:63-74.

(12)西田文信. 2018.「オレカ語の言語学的特徴について 音声・音韻・形態を中心に」『ブータン学研究』1:1-22.

(4)はブータン王国で話されているレプチャ語話者の母音の音響音声学的分析、(5)はマンデ語の基礎語彙のうち身体部位名称についての報告、(6)はブータン王国の情報化社会に関する優れた論考に対する書評、(7)はワンディポジャン県で話されているラカ語の音声的特徴について論じたもの、(8)はゾンカ語の成立・変遷・現状について言語政策との関連で論じたもの、(9)はゾンカ語の能格性についての文例集、(10)はマンデビ語諸方言における発音の年代差に関する報告、(12)はBlack Mountainとも称されるオレカ語の音韻に関する調査報告。

#### 【口頭発表】

(13)西田文信. 2021.「マンデビ語における幼児語の言語特徴について」先住民言語文化研究会第3回例会(北海道大学) 2021年2月28日.

(14)西田文信. 2019.「ブータンの言語政策 ゾンカを巡る現状と課題」日本南アジア学会第32回全国大会(慶應義塾大学) 2019年10月6日.

(15)西田文信. 2019.「ゾンカ語とシッキム語の言語的距離について」日本ブータン学会第3回大会(早稲田大学) 2019年5月19日.

(16)Nishida, Fuminobu. 2019. Sentence types of Mangdebikha. The Inaugural International Society of Bhutan Studies (ISBS) Conference. Magdalen College, the University of Oxford. 2019年1月8日.

(17)Nishida, Fuminobu. 2018. Linguistic variations of different age groups in the Mangdep dialects. *Proceedings of the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics*. Kyoto University.

(18)西田文信. 2018.「ゾンカ語における音素の出現頻度について」第2回日本ブータン学会大会(京都大学) 2018年5月19日

(13)はマンデビ語の幼児語における言語特徴を音韻現象を中心に歴史的考察も踏まえて論じたもの、(14)はゾンカ語の成立・変遷・現状について言語政策との関連で論じたもの、(15)はインドのシッキム州で話されているシッキム語(=デンジョンケ)とゾンカ語の言語的距離についての初歩的考察、(16)はマンデビ語の文を形式の観点から分類しその意味機能を論じたもの、(17)はマンデビ語諸方言における発音の年代差に関する報告、(18)はゾンカ語の音素の頻度について共時的に論じ言語類型論的観点からも考察したもの。

(2)その他のチベット・ビルマ諸語に関する成果としては以下のものが挙げられる:

#### 【図書】

(19)Nishida, Fuminobu. 2021. *A Grammar of Syanja Gurung*.

(20)西田文信. 2019. 『ナムイ語文法の記述言語学的研究』東北大学出版会.

(19)は研究代表者がこれまで発表したグルン語に関する論考をまとめたもので、(20)はナムイ語に関しての文法書である。

#### 【論文】

(21)西田文信. 2021.「レプチャ語ガントク方言の音韻体系試論」『言語記述論集』13:179-187.

(22)Celeste G., Lee S.H, and F. Nishida. 2019. An acoustic and articulatory study of Denjonke fricatives. In Sasha Calhoun, Paola Escudero, Marija Tabain & Paul Warren (eds.) *Proceedings of the 19th International Congress of Phonetic Sciences, Melbourne, Australia 2019*. pp. 1179-1183.

(20)はレプチャ語ガントク方言の音韻に関して特に頭子音結合について報告したもので、(22)はインドのシッキム州で話されているシッキム語(=デンジョンケ)の摩擦音に関する調音・音響音声学的考察である。

#### 【口頭発表】

(23)西田文信. 2022.「Langues des peuples non chinois de la chine 所載の言語研究: 序説」第8回清代言語接触研究会(東京都立大学) 2022年3月10日.

(24)Nishida, Fuminobu. 2019. Exploring morphophonological alternations: toward constructing phonology-based checklist. PhoPhoNO Project Workshop (Tohoku University) 2019年2月8日.

(23)はドローヌにより記述された言語資料の初歩的分析で、(24)は形態音韻論的現象を調査する際に必要な調査項目について論じたものである。

(3)研究成果の社会的還元としてのアウトリーチ活動は以下の通り:

#### 【口頭発表】

(25)西田文信. 2019.「ブータン(南アジア)を巡る」慶應義塾大学言語文化研究所フィールド言語学公開ワークショップ「未知の言語を探る旅」(慶應義塾大学) 2019年12月7日.

(26)西田文信. 2019.「ブータン人のことばと暮らし ゾンカ語の普及と言語多様性の視点から」NPO法人地球ことば村・世界言語博物館(慶應義塾大学) 2018年10月13日.

(25)はブータン王国の言語状況及びゾンカ語についての紹介で、(26)は言語多様性・危機言語の観点からブータン王国の諸言語について、言語学者の社会的役割について報告したもの。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 西田文信	4. 巻 14
2. 論文標題 マンデ語の身体部位名称	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 145-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 71
2. 論文標題 レプチャ語ブータン方言の母音に関する覚書	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学研究	6. 最初と最後の頁 195-207
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 1
2. 論文標題 ブータンの医学と医術	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想的研究	6. 最初と最後の頁 217-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 13
2. 論文標題 レプチャ語ガントク方言の音韻体系試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 179-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 4
2. 論文標題 書評：藤原整著『ブータンの情報社会』早稲田大学出版部(2020年)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ブータン学研究	6. 最初と最後の頁 91-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 4
2. 論文標題 ラカ語音韻論-共時的・通時的分析-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ブータン学研究	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Celeste Guillemot, Seunghun Lee, Fuminobu Nishida	4. 巻 1
2. 論文標題 An acoustic and articulatory study of Denjonke fricatives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 19th International Congress of Phonetic Sciences, Melbourne, Australia 2019	6. 最初と最後の頁 1179-1183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 西田文信	4. 巻 37
2. 論文標題 開篇	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代香港粵語における上声の変異について 同一話者の経年調査の結果から	6. 最初と最後の頁 292-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 3
2. 論文標題 ゾンカ語の能格性に関する覚書(その1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ブータン学研究	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 2
2. 論文標題 マンデビ語諸方言における音韻の年代差	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ブータン学研究	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田文信	4. 巻 20
2. 論文標題 ブータン王国の諸言語について 言語多様性の現状と課題: Lhokpu語を例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒマラヤ学誌	6. 最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 3件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 マンデビ語史的音韻論と幼児語
3. 学会等名 第1回南チベット研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 探検家資料資料を用いた言語研究の一例
3. 学会等名 第2回南チベット研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 Langues des peuples non chinois de la chine所載の言語研究:序説
3. 学会等名 第8回清代言語接触研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 マンデビ語における幼児語の 言語特徴について
3. 学会等名 先住民言語文化研究会第3回例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ゾンカ語とシッキム語の言語的距離について
3. 学会等名 日本ブータン学会第3回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ceeste Guillemot, Seunghun Lee, Fuminobu Nishida
2. 発表標題 An acoustic and articulatory study of Denjonke fricatives
3. 学会等名 The 19th International Congress of Phonetic Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ブータンの言語政策ーゾンカを巡る現状と課題ー
3. 学会等名 日本南アジア学会第32回全国学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ゾンカが作られるとき ブータンの言語ナショナリズムとゾンカ
3. 学会等名 第114回ブータン勉強会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ブータンの医学と医術
3. 学会等名 アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究第二回全体会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ブータン王国地域言語研究序説
3. 学会等名 第86回ブータン勉強会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ゾンカ語における音素の出現頻度について
3. 学会等名 第2回日本ブータン学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ブータン王国の研究について一言語学的研究を中心にー
3. 学会等名 第55回正午PD会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ブータン王国の言語について
3. 学会等名 第88回ブータン勉強会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 NISHIDA, Fuminobu
2. 発表標題 Linguistic variations of different age groups in the Mangdep dialects
3. 学会等名 The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ブータン人のことばと暮らし ゾンカ語の普及と言語多様性の視点から
3. 学会等名 NPO法人地球ことば村・世界言語博物館ことばのサロン(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 記述言語学的研究についてー中国とブータンを例にー
3. 学会等名 第70回東北大学祭学術企画
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 NISHIDA, Fuminobu
2. 発表標題 Sentence types of Mangdebikha
3. 学会等名 The Inaugural International Society of Bhutan Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 四川省の少数民族言語～ナムイ語を中心に～
3. 学会等名 東北大学中国語セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田文信
2. 発表標題 ゾンカ語とシッキム語の言語的距離について
3. 学会等名 第3回日本ブータン学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 西田文信	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 327
3. 書名 日本語の隣人たちI+II	

1. 著者名 西田文信	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 67
3. 書名 ゾンカ語基礎語彙集	

1. 著者名 西田文信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 230
3. 書名 ゾンカ語表現集	

1. 著者名 西田文信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 254
3. 書名 ナムイ語文法の記述言語学的研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スイス	ベルン大学			
ブータン	Dzongkha Development Commission			
中国	香港大學			